

放牧型草種の選定

放牧草(草高20cm刈)として季節生産性と収量(10a当り乾物収量 kg)

番 草 草 種	1		2		3		4		5		計	同 比 (%)
	5/11	164	5/25	146	6/ 9	80	7/14	103	8/25	76		
チ モ シ ー	5/11	164	5/25	146	6/ 9	80	7/14	103	8/25	76	569	78
オーチャードグラス	5/11	155	5/25	156	6/30	164	7/20	135	8/25	123	733	100
メドウフェスク	5/16	148	5/31	134	7/ 6	190	8/15	201	9/26	134	807	110
ペレニアル ライグラス	5/16	113	6/ 5	192	7/ 6	232	8/14	211	9/14	136	884	121
ケンタッキー ブルーグラス	5/20	144	6/22	192	7/14	260	8/25	216			812	111

(注) 北農試 5 / 11は刈取りの月 / 日を示す。

上表から、放牧型草種を選定するため次の要因について考えてみますと、

1. 季節生産性の均等性

生育型 春～夏型……オーチャードグラス、チモシー、ケンタッキーブルーグラス

春～秋型……メドウフェスク、ペレニアルライグラス

チモシー、オーチャードはスプリングフラッシュ及び春に生産量が偏っている。

メドウフェスク、ペレニアルライグラスは、毎月の生産量が大体安定している。

2. 放牧期間の延長

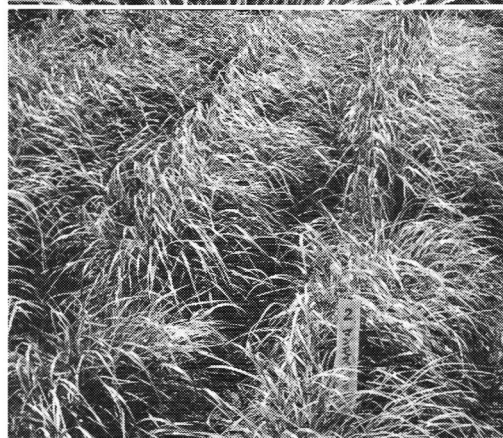
メドウフェスクとペレニアルライグラスは、春のスタートはやや遅いが、秋の生育が旺盛である。

(チモシー、オーチャードより約1 ヶ月放牧期間を延長できる)

3. 放牧草としての収量

1年間の合計に明らかな通り、チモシーは少なく、ペレニアルライグラス、メドウフェスク、ケンタッキーブルーグラスは多収。

以上のように放牧草として、メドウフェスク、ペレニアルライグラスが各要因に於て優れていることがわかります。従って放牧草地造成の場合、これら草種を混播に組入れ、季節生産性、放牧期間の延長、多収を計ることができます。(うへはら)



放牧型適草種のペレニアルライグラス(上)とメドウフェスク(下)